

東京音頭（東京都）

東京音頭は昭和8年(1933)7月、西条八十作詞、中山晋平作曲、小唄勝太郎・三島一声唄でビクターレコードから発売された新民踊である。とはいうものの、この歌は前年の昭和7年にビクターレコードから『丸の内音頭』として藤本二三吉と三島一声の2人が、それぞれ片面ずつ吹き込み発売されたものの焼き直しである。





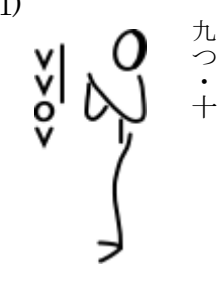

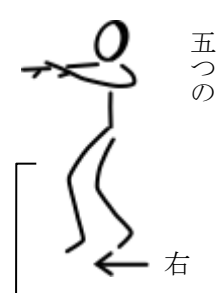

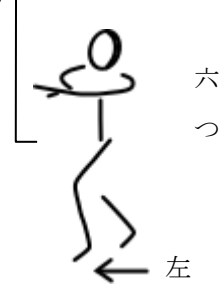

その当初の歌詞は「ハァー 踊り踊るなら 丸くなって踊れ ヨイヨイ 踊りゃ心もソイ 踊りゃ心も丸の内 ヤットナツソレ ヨイヨイヨイ ヤットナツソレ ヨイヨイヨイ」であった。

これが大当たりで、日比谷公園で、数万人が集って踊ったのをはじめ、東京市内(当時は東京市であった)の隅々まで踊りの輪ができた。踊りは民踊の基本動作を簡単にまとめて花柳寿美が振付けた。これが多いに受け、この年だけで30万枚ものレコードが売れたという。以来、これといった盆踊り歌のない東京の住民の間に定着したのである。

東京音頭

- ◆ 隊 形：輪おどり。
- ◆ 進行方向：反時計まわり。
- ◆ 踊り始め：進行方向をむき、前奏4呼間を聞いてから、“チョチョンがチョン”と手拍子をして踊り始める。図(1)(2)
- ◆ 踊り方
 - ① 一つの二つ
右手眺めかざし、左手は左下方に伏せ流しながら、左足を後ろに引く(2呼間)。両手をふりかえて、右足を後ろに引く(2呼間)。図(3)(4) ……………4呼間
 - ② 三つの四つ
両手左右下方から頭上にあげかざしながら、右足を進行方向に出す(2呼間)。もう1度あげかざしながら左足を進行方向に出す(2呼間)。図(5)(6) ……………4呼間
 - ③ 五つの六つ
右手を前に伏せ伸ばし、左手を右二の腕に添えながら、右足を進行方向へ出す(2呼間)。両手ふりかえて左足を進行方向へ出す(2呼間)。図(7)(8) ……………4呼間
 - ④ 七つの八つ
右手あげかざし、左手は右二の腕に添えながら、右足を進行方向へ出し、左足を右足後ろに“トン”と爪立てる(2呼間)。両手をふりかえて反対動作を行う(2呼間)。図(9)(10) …4呼間
 - ⑤ 九つ・十
右足を左足に揃えながら、胸前で“チョチョンがチョン”と手拍子を行なう。図(11)

以上をくり返す。

<p>◆ 輪おどり ◆ 反時計まわり</p>	<p>(5) 三つの 右</p> 	<p>(10) 八つ 左 右</p> 	
<p>(1) 前奏 4 呼間</p> 	<p>(6) 四つ 左</p> 	<p>(11) 九つ・十 左</p> 	
<p>(2)</p> 	<p>(7) 五つの 右</p> 	<p>☒ (3) からくり返す</p>	
<p>(3) 一つの 左</p> 	<p>(8) 六つ 左</p> 		
<p>(4) 二つ 右</p> 	<p>(9) 七つの 右 ↑ 左 ↓</p> 